

授業名	栄養教諭論Ⅰ	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修	
担当教員名	◎亀田 明美			
開講期	前期			
授業の概要	【授業の目的・ねらい】 ①栄養教諭の使命や職務内容を理解する。 ②教育に関する専門性および栄養に関する専門性を習得する。 ③児童・生徒を取り巻く現状を把握し、問題点を見つける。 ④児童・生徒の健全な食習慣確立と心身の健康の保持増進のために必要な教育を行うための知識や技術を習得する。 【授業全体の内容の概要】 栄養教諭の使命や職務内容の重要性を理解し、教育に関する専門性および栄養に関する専門性を身に付けるとともに、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、児童・生徒の健全な食習慣確立と心身の健康の保持増進のために必要な教育を行うための知識や技術を習得することを目的とする。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック（評価の伝達）方法】 課題を課した翌週の授業で、解説を行い、フィードバックします。			
授業の到達目標	【履修カルテの評価項目（達成目標）】 ①栄養教諭の職務内容と位置づけ、期待される役割について理解できたか。 ②子どもの体位体格を知り、食生活の大切さを考えることができたか。 ③食に関する指導の全体計画について理解できたか。 【単位認定の最低基準】：「内容の6割を理解してること」			
履修条件	食物栄養学科 2年	成績の 評価方法・基準	①筆記試験 50% ②レポート・発表 30% ③授業態度 20%	
テキスト	四訂 栄養教諭論 ー理論と実際ー 建帛社 2800円＋税			
参考書	食に関する指導の手引 ー第二次改定版ー 文部科学省 東山書房 1200円＋税 小・中学習指導要領、小・中学習指導要領解説			
学生への要望	日頃から食育に関心を持ち、子どもの食生活や食習慣の現状とその問題点に関する情報収集を行うこと。			
位置付け・水準	FN2265			
ディプロマポリシーとの関係	知識・技能、社会的応用、倫理・責任、衛生管理・指導			
オフィスタイム	水曜日2コマ目 木曜日5コマ目			
アクティブラーニング実施内容	食に関する指導の実践 給食時間の指導について指導案を作成し実践する			
実務家教員の経歴	福島県教育庁県北教育事務所指導主事 福島県栄養教諭			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	シラバスの説明を通し、授業の目標と進め方、成績評価方法について確認する。また栄養教諭配置に関する情報等の確認を行う。	与えられた課題に取り組む。	60
2	栄養教諭の制度と役割①	栄養教諭の職務が食に関する指導と学校給食の管理であることを理解し、栄養教諭に期待される役割について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
3	栄養教諭の制度と役割②	学校栄養職員の歴史と栄養教諭制度創設までの経緯について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
4	栄養教諭の制度と役割③	学校給食の歴史を振り返り、学校給食の教育的な意義と役割、学校給食法、食育基本法、食育推進基本計画について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
5	学校組織と栄養教諭	学校組織と栄養教諭の位置づけについて学び、学校組織の中での栄養教諭の具体的な働きについて理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
6	学校給食と日本人の食生活	学校給食の食事内容の推移、米飯給食から始まったといわれる郷土食や地場産物の活用について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	子どもの発達と食生活	現在の児童・生徒の体位、体力、健康状態、栄養素摂取状況、食生活の実態、さらに不登校や摂食障害など心の健康問題について理解し、それらを正しく説明できる知識を習得する。あわせて、他職種と協力しての栄養教諭の対応について考える。	与えられた課題に取り組む。	60
8	学習指導要領の意義と食育のあり方	学校において食育を推進するにあたっては、学習指導要領の趣旨や内容などをよく理解した上で、教育課程に位置付け、組織的・計画的な取り組みを行うことが大切であることを学ぶ。	与えられた課題に取り組む。	60
9	食に関する指導の全体計画	食に関する指導は、「食に関する指導の全体計画」を作成し、全教職員が共通理解の下、学校教育活動全体として取り組むことが重要である。全体計画の必要性、作成の手順及び内容、食育推進の評価について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
10	食に関する指導の展開	食に関する指導は、給食の時間をはじめとして、関連教科などに幅広くかかわるものであるので、指導の計画と給食管理との有機的連携を図った食に関する指導の年間指導計画が作成されていることを理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
11	給食の時間における食に関する指導①	学習指導要領における学校給食の位置づけを再確認し、給食の時間における指導の特徴や進め方、指導の留意点について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
12	給食の時間における食に関する指導②	給食の時間における食に関する指導の実際として、給食の時間（ショートタイム）の模擬授業の演習を行う。	与えられた課題に取り組む。	60
13	教科等における食に関する指導①	食に関する指導は、教科・領域の指導などと相互に関連させながら学校教育活動全体を通して行われている。本時では生活科、家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における食に関する指導について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
14	教科等における食に関する指導②	前回到引き続き、小・中学校の学習指導要領から各教科の目標や内容を把握し、「体育科」、「保健体育科」、総合的な学習の時間における食に関する指導について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
15	まとめ	半期を振り返り、栄養教諭Ⅰで学んだ内容のより一層の定着を図る。	与えられた課題に取り組む。	60

授業名	栄養教諭論Ⅱ	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 必修
担当教員名	◎亀田 明美		
開講期	前期		
授業の概要	【授業の目的・ねらい】 ①栄養教諭の使命や職務内容を理解する。 ②教育に関する専門性および栄養に関する専門性を習得する。 ③児童・生徒を取り巻く現状を把握し、問題点を見つける。 ④児童・生徒の健全な食習慣確立と心身の健康の保持増進のために必要な教育を行うための知識や技術を習得する。 【授業全体の内容の概要】 栄養教諭の使命や職務内容の重要性を理解し、教育に関する専門性および栄養に関する専門性を身に付けるとともに、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、児童・生徒の健全な食習慣確立と心身の健康の保持増進のために必要な教育を行うための知識や技術を習得することを目的とする。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック（評価の伝達）方法】 課題を課した翌週の授業で、解説を行い、フィードバックします。		
授業の到達目標	【履修カルテの評価項目（達成目標）】 ①栄養教諭の職務内容と位置づけ、期待される役割について理解できたか。 ②子どもの体位体格を知り、食生活の大切さを考えることができたか。 ③食に関する指導の全体計画について理解できたか。 【単位認定の最低基準】：「内容の6割を理解してること」		
履修条件	食物栄養学科 2年	成績の 評価方法・基準	①筆記試験 50％ ②レポート・発表 30％ ③授業態度 20％
テキスト	四訂 栄養教諭論 ー理論と実際ー 建帛社 2800円＋税		
参考書	食に関する指導の手引 ー第二次改定版ー 文部科学省 東山書房 1200円＋税 小・中学習指導要領、小・中学習指導要領解説		
学生への要望	日頃から食育に関心を持ち、子どもの食生活や食習慣の現状とその問題点に関する情報収集を行うこと。		
位置付け・水準	FN2265		
ディプロマポリシーとの関係	知識・技能、社会的応用、倫理・責任、衛生管理・指導		
オフィスタイム	水曜日2コマ目 木曜日5コマ目		
アクティブラーニング実施内容	食に関する指導の実践 給食時間の指導について指導案を作成し実践する		
実務家教員の経歴	福島県教育庁県北教育事務所指導主事 福島県栄養教諭		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	シラバスの説明を通し、授業の目標と進め方、成績評価方法について確認する。また栄養教諭配置に関する情報等の確認を行う。	与えられた課題に取り組む。	60
2	栄養教諭の制度と役割①	栄養教諭の職務が食に関する指導と学校給食の管理であることを理解し、栄養教諭に期待される役割について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
3	栄養教諭の制度と役割②	学校栄養職員の歴史と栄養教諭制度創設までの経緯について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
4	栄養教諭の制度と役割③	学校給食の歴史を振り返り、学校給食の教育的な意義と役割、学校給食法、食育基本法、食育推進基本計画について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
5	学校組織と栄養教諭	学校組織と栄養教諭の位置づけについて学び、学校組織の中での栄養教諭の具体的な働きについて理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
6	学校給食と日本人の食生活	学校給食の食事内容の推移、米飯給食から始まったといわれる郷土食や地場産物の活用について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
7	子どもの発達と食生活	現在の児童・生徒の体位、体力、健康状態、栄養素摂取状況、食生活の実態、さらに不登校や摂食障害など心の健康問題について理解し、それらを正しく説明できる知識を習得する。あわせて、他職種と協力しての栄養教諭の対応について考える。	与えられた課題に取り組む。	60
8	学習指導要領の意義と食育のあり方	学校において食育を推進するにあたっては、学習指導要領の趣旨や内容などをよく理解した上で、教育課程に位置付け、組織的・計画的な取り組みを行うことが大切であることを学ぶ。	与えられた課題に取り組む。	60
9	食に関する指導の全体計画	食に関する指導は、「食に関する指導の全体計画」を作成し、全教職員が共通理解の下、学校教育活動全体として取り組むことが重要である。全体計画の必要性、作成の手順及び内容、食育推進の評価について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
10	食に関する指導の展開	食に関する指導は、給食の時間をはじめとして、関連教科などに幅広くかかわるものであるので、指導の計画と給食管理との有機的連携を図った食に関する指導の年間指導計画が作成されていることを理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
11	給食の時間における食に関する指導①	学習指導要領における学校給食の位置づけを再確認し、給食の時間における指導の特徴や進め方、指導の留意点について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
12	給食の時間における食に関する指導②	給食の時間における食に関する指導の実際として、給食の時間（ショートタイム）の模擬授業の演習を行う。	与えられた課題に取り組む。	60
13	教科等における食に関する指導①	食に関する指導は、教科・領域の指導などと相互に関連させながら学校教育活動全体を通して行われている。本時では生活科、家庭科、技術・家庭科（家庭分野）における食に関する指導について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
14	教科等における食に関する指導②	前回到引き続き、小・中学校の学習指導要領から各教科の目標や内容を把握し、「体育科」、「保健体育科」、総合的な学習の時間における食に関する指導について理解する。	与えられた課題に取り組む。	60
15	まとめ	半期を振り返り、栄養教諭論Ⅰで学んだ内容のより一層の定着を図る。	与えられた課題に取り組む。	60

授業名	教育原理Ⅰ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修
担当教員名	◎野口 周一 山本 裕詞		
開講期			
授業の概要	本授業は共通基礎科目であると同時に、教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目である。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や徳育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。 こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスをを培うようにする。 また、授業後半で実施する小テスト、小レポートは、添削し、次回授業冒頭で個々人へ返却・解説を通じてフィードバックする。 尚、本科目の担当教員である山本は、中等教育における教員経験者として配置されている。実践と理論の往還の中で、当該授業は進められていく。		
授業の到達目標	<履修カルテの評価項目：到達目標> ①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、教育基本法上の規定のみならず、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長についてアプローチができること。 ②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになっていること。 ③学校・学級に関するさまざまな話題について、問題意識を高め、図書館にも出向き、自ら資料を通して分析することができるようになっていること。 ④マスコミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的にではなく、原理的に考察できるようになっていること。 これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「知識・理解」、「倫理観・社会的責任」、「総合的学習経験・創造的思考力」が培われる。また、単位認定の最低基準は、これら四つの項目の7割程度理解し、活用できることである。		
履修条件	家政学部 生活科学科 社会福祉専攻 2年 2単位 選択 家政学部 生活科学科 建築デザイン専攻 2年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択 家政学部1年生 2単位 選択	成績の 評価方法・基準	①授業中に数回レポートを課し、次回の授業で確認を行う。レポートの評価と発表・意見交換などで50点とする。 ②学期末のレポートまとめて50点。この2つの総合点が100点とする。
テキスト	毎回の授業時にその日の講義内容を詳述した特製レジュメを配布する。それらを順序良くノートやファイルに綴じて毎回の授業に持参し、復習にも用いること。試験前にはそれら配布資料をしっかりと再読すること。 尚、教科書は、田嶋・中野他著『やさしい教育原理 第3版』（有斐閣アルマ、2020年）を使用する。		
参考書	授業の中で、必要に応じて紹介していく。		
学生への要望	講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には、教科書を中心としながら、下調的な学習を求める。 教育の原理となっている教育思想や教育行政には、歴史的系譜というものがあり、まずはそれを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を学ぶことで、主要な教育思想や特徴を把握していくならば、歴史的に知られている教育思想を生き生きと理解することができる。		
位置付け・水準	1年：GU1123 2年：TP9101		
ディプロマポリシーとの関係	「授業の到達目標」に記載している。		
オフィスタイム	野口：時間割発表後に知らせる。 山本：時間割発表後に知らせる。		
アクティブラーニング実施内容	講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には下調的な学習を求める。		
実務家教員の経歴	山本：「授業の概要」欄参照。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	1. 人間への問いと教育への問い 野口	受講生の皆さんと一緒に次のテーマについて考える。 1 「人間とは何か」 2 ルソーの『エミール』と「子どもの発見」	予習・復習	90
2	2. 教育とは何か2 野口	1. 発達への助成的介入 2. 教育と教化と形成	予習・復習	90
3	3. こころとからだを育てる 野口	1. こころとからだを育てる計画 2. 学力とは何か	予習・復習	90
4	4. こころとからだを育てる 2 野口	1. 身体文化と教育 2. 道徳性の発達と教育 3. 教育における言葉と文化	予習・復習	90
5	5. よりよく学び、教えるために 野口	1. 学習することの意味 2. 授業を改革するために 3. 学校教育の可能性	予習・復習	90
6	6. 教師の仕事 野口	1. 教師とは何か 2. 教師の力量とは何か 3. 授業をつくる教師	予習・復習	90
7	7. 青年期と教育 野口	1. 青年とは何か 2. 現代の青年と社会参加 3. 青年期の課題と教育	予習・復習	90
8	8. 教育法規の体系 山本	1. 日本国憲法 2. 子どもの権利条約 3. 教育基本法 4. 学校教育法・同施行規則 法の形式的効力の原理と、制度規範としての教育法の基礎を学びます。	予習・復習	90
9	9. 日本の教育制度と行政 山本	1. 学校教育制度 2. 社会教育・生涯学習制度 3. 教育行政システム 日本の教育制度と行政を総覧した上で、教育行政の一般行政からの相対的独立の意義を考えます。	予習・復習	90
10	10. 学校とは何か 山本	1. 学校の登場 2. 近代学校の性格 学習権保障の内実を考察の中心に据えながら、国家・社会的見地からの学校体系の設計について検討します。	予習・復習；レポート作成と整理	90
11	11. 学校とは何か 2 山本	1. 近代以前の日本の学校 2. 日本の「近代化」と学校教育 3. 新たな出発、その後の展開	予習・復習	90
12	12. 生涯学習社会 山本	1. 戦後の社会教育制度 2. 生涯学習への移行 3. 地球市民という生き方 生涯学習社会への移行を理解するために、コンドルセにみる理念的誕生と、その後の制度の推移を確認する。その上で、人間化へ向かう生涯学習と社会適応（資本適応）に向かう二つのベクトルがあることを理解し、我が国における「生涯学習社会」の実態を評価する。	予習・復習	90
13	13. 日本社会が抱える教育に関する病理（1） 山本	1. 「いじめ」研究による「いじめ」解釈 2. 群生秩序と普遍秩序 3. 校則を考える 個性と社会性の双方の成長を考えたとき、目指すべき集団指導の在り方を考えていく。	予習・復習	90
14	14. 日本社会が抱える教育に関する病理（2） 山本	1. 「教育病理」の理論と制度的対応の限界 2. 子どもの最善の利益とは 「教育病理」概念についての理解を深め、それに対する制度的対応を確認することを通して、公教育に内在する原理的課題について考察する。	予習・復習	90
15	15. 授業のまとめと確認テスト 野口、山本	授業のまとめと確認を行う。	予習・復習	90

授業名	教育心理	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 1年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員名	◎折笠 国康		
開講期			
授業の概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。 位置づけ・水準 GU1124		
授業の到達目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。 単位認定の最低基準は、：「内容の7割を理解していること」 ディプロマ・ポリシーとの関連：知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力		
履修条件	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 家政学部 食物栄養学科 2年	成績の 評価方法・基準	授業内容の「70％程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やアクションシート30％、試験70％で行う。
テキスト	特に指定はない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
位置付け・水準	GU1124		
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、総合的な学習経験、創造的思考力		
オフィスタイム	金曜1、2限 835		
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。 認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
13	アドラー心理学（1）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
14	アドラー心理学（2）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の内容を振り返り心理学的な知見のまとめを行う。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる	60

授業名	特別支援教育概論(食物栄養学科3年生)	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 1年 1単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 1年 1単位 選択/家政学部 食物栄養学科 1年 1単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 1単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 1単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 1単位 選択	
担当教員名	◎小林 徹			
開講期	後期			
授業の概要	1. 特別支援教育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 特別支援教育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援について理解する。 4. 障がい児等の個別の指導計画、支援計画の作成、評価について理解する。 5. 特別支援教育の実践について理解を深める。 課題、レポート、実技については、実施後に授業内でフィードバックを行う。			
授業の到達目標	1. 特別支援教育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児の個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法、障がいではない特別な教育的ニーズの把握と支援についてどの程度理解できたか。 単位認定の最低基準は、内容の7割が理解できていること。			
履修条件	教職課程を履修する学生を中心とする	成績の 評価方法・基準	平常点50点（小テスト、提出物、授業態度による減点） 期末試験50点	
テキスト	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育』みらい,2020			
参考書	授業内で紹介する。			
学生への要望	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。			
位置付け・水準	TP9106			
ディプロマポリシーとの関係	知識・技能、社会的応用、衛生管理・指導			
オフィスタイム	毎週水曜9：10～12：05、小林徹研究室。それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
アクティブラーニング実施内容	特になし。			
実務家教員の経歴	東京都の公立中学校において特別支援学級の担任教諭として25年間勤務した。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	特別支援教育の考え方、制度と仕組み	障がい児、特別な配慮を要する子ども、特別支援教育の基礎概念について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
2	障がいとの出会いと子育て、保護者支援	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実践を映像を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
3	障がい児の理解と支援①発達障がい・知的障がい・情緒障がい	発達障がい・知的障がい・情緒障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
4	障がい児の理解と支援②肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がい	肢体不自由・視覚障がい・聴覚障がい・言語障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
5	障がい児の理解と支援③病弱・重複障がい・障がいではない特別な教育的ニーズ	病弱・重複障がい・障がいではない特別な教育的ニーズに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
6	他機関との連携	特別支援教育に関するさまざまな機関との連携、幼保小中高の接続について学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
7	個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成と活用	子どもとその特別な教育的ニーズをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30
8	特別支援教育のこれまでとこれから	特別支援教育の歴史的変遷を学習した後、全体の学習内容を振り返り、教師として特別支援教育にどう取り組むかを考察する。	【事前】当日の内容をテキストで確認する。【事後】授業を踏まえてまとめと質問シートを作成する。	30

授業名	教職論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	〔授業の目的・ねらい〕 最初に、人間の成長に必要なとなる「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育機関である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。後半では、近年社会問題化している教育問題について、それに対して期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来の意義から批判的に検討します。 各授業後半に実施する小テストや小レポートは、添削し、次回授業冒頭で個人へフィードバックします。 また、最終授業において、授業内容全体の総まとめを行います。 なお、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実際を反映した指導を行います。			
授業の到達目標	1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 単位認定の最低基準は、上記1)～4)の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	教職等に就くことを希望する者		成績の 評価方法・基準	まとめ試験50％、授業末や課題として実施する小テスト・小レポート等の提出物等50％の割合で総合評価。
テキスト	最新版の教育小六法を必ず用意すること（推奨図書『教育小六法2024年版』学陽書房）など。なお、授業中にプリント等を配布することがあるので、ファイリングしてノートと連動して活用できるようにしておくこと。			
参考書	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』2017年			
学生への要望	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
位置付け・水準	TP9102			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	月曜日1時間目、及び2時間目			
アクティブラーニング実施内容	授業内容に応じて、グループディスカッション等、アクティブラーニングの手法を活用します。			
実務家教員の経歴	中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務経験がある。発達障がい者教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務経験がある。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教師の在り方を考える(グループ・ディスカッション)	まとめの小レポート	90
2	学校教育の機能 1	○学校教育の目的 （1）学校の種類 （2）学校の設置者 （3）教育行政と学校管理	復習 小テスト	90
3	学校教育の機能 2	○教職員とその職務 （1）教職員の職務とその内容 （2）事務職員の職務 （3）その他	復習 小テスト	90
4	教員の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 （1）教職観と教員に求められる資質の関係 （2）専門職としての教員 （三つの教職観についてのグループ・ディスカッション）	復習 小レポート	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	学校の組織と運営 1	○校長および教頭、主任の職務と役割 (1) 校長 (2) 副校長、教頭 (3) 主任等	復習 小テスト	90
6	学校の組織と運営 2	○学校の組織と運営 (1) 校務分掌による役割分担 (2) 新しい職による組織の変化	復習 小レポート	90
7	教諭の教育活動 1	○学級担任の職務と教科指導等 (1) 学級担任の役割と学級経営 (2) 教科指導 (3) 養護教諭、栄養教諭の職務	復習 小テスト	90
8	教諭の教育活動 2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 (1) 道徳教育の実際 (2) 総合的な学習の時間	復習 小レポート	90
9	教諭の教育活動 3	○生徒理解にもとづく指導 (1) 生徒指導の意義 (2) 進路指導の意義 (教育相談と生徒指導の関係について、全体討議)	復習 小レポート	90
10	教員の服務	○教員の一日と服務規程 (1) 勤務と休暇 (2) 服務規律	復習 小テスト	90
11	教員の研修	○教員の研修とその体系 (1) 教員研修の種類 (2) 教員研修の内容 (3) 免許更新制度	復習 小テスト	90
12	現代における学校教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 (1) 同和教育 (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解 (3) 貧困と教育機会	復習 小レポート	90
13	現代における学校教育の課題 2	○いじめと不登校 (1) いじめの現状と自己の認識 (2) いじめ重大事態における公教育責任 (3) 専門職間の連携・協働 (いじめの4層構造理論をもとに、いじめをなくす方策を全体討議)	復習 小レポート	90
14	現代における学校教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 (1) 学習指導要領の歴史的変遷 (2) 新学習指導要領の目指すもの	復習 小レポート	90
15	授業のまとめ	○授業の総まとめ	復習 総まとめテストのチェック	120

授業名	教育課程論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	「教育のパラドックス」（第1回の授業で解説する）についての理解の上に、教育課程についての基本的な知識を獲得する。そして、教育課程の編成や開発などの基本的な問題の考察を行い、新学習指導要領が重視するカリキュラム・マネジメントの基礎力を培う。また、学習指導要領の変遷について、その社会背景との関連を理解しながら学ぶことで、今日の学校教育や教育課程を相対化する視点を獲得する。各授業の後半に実施する小テストや小レポートは、添削した上で、次回授業冒頭でフィードバックする。さらに、最終回の授業では、授業全体のフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①カリキュラムの編成原理について理解し、授業デザイン等実践上の工夫ができるようになる。 ②学習指導要領の変遷を社会背景との関係で理解し、その役割、機能、意義について説明できるようになる。 ③教科横断的な授業デザインや、学校段階をつなぐカリキュラムの編成について理解する。 ④カリキュラム・マネジメントについて理解し、カリキュラムの編成を評価と関連付けて説明することができる。 単位認定方法の最低基準：①～④のそれぞれを総合して7割以上が達成されていること。			
履修条件	本学教職課程履修者。2 学年以上。	成績の 評価方法・基準	小テスト、小レポート等の評価で50％。最終授業で実施する確認テストで50％。総合点で 6 割以上が合格。	
テキスト	○文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』平成29年7月、東山書房。 ○『教育小六法』（3 年以内に公刊されたもの）。			
参考書	○山田雅彦編著『教育課程論』学文社、2016年。			
学生への要望	実際に教壇に立つことを想定して、授業に臨んで欲しい。			
位置付け・水準	TP9105			
ディプロマポリシーとの関係	知識理解、問題解決力、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日 1 時間目及び2時間目。教職課程推進室 1（図書館 3 階）			
アクティブラーニング実施内容	実務家教員として、中等教育や特別支援教育における教員経験から、多様な生徒を対象にする教育課程の実際や、一斉授業における個別配慮の実際を提示することで、学生は議論の対象となるイメージを獲得し、主体的で対話的な深い学びが可能になる。			
実務家教員の経歴	中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校に勤務。特別支援教育の教員としては、学習障がい者を主に対象とする全日制教育機関であるフリースクール飛翔中等部（現星槎中学校）に勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	○学習の目的と授業計画。 ○「教育のパラドックス」を前提とする人間モデルとカリキュラムの意義。	復習：授業時配布プリント等。	90
2	経験の中のカリキュラム	○自己の経験を振り返ることを通して、カリキュラムの意義について考える。 ○カリキュラムの4層構造。	復習：カリキュラムの4層構造について、説明できるようにする。	90
3	カリキュラムの編成原理①	○児童中心主義と社会的効率主義	予習：図書館やSNS で事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
4	カリキュラムの編成原理②	○行動主義と学問中心カリキュラム、編成の方法と分類。	予習：図書館やSNS で事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
5	日本のカリキュラム①	○教育課程行政にみる教育課程編成の仕組み。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
6	日本のカリキュラム②	○学習指導要領の特徴と改訂の背景。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
7	日本のカリキュラム③	○学習指導要領の変遷。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
8	日本のカリキュラム④	○各教科における教育内容の変遷。	予習：図書館やSNS で事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
9	日本のカリキュラム⑤	○教育評価（指導と評価の計画）。	予習：図書館やSNS で事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
10	日本のカリキュラム⑥	○総合的な学習の時間と教育課程改革。	予習：図書館やSNS で事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	日本のカリキュラム⑦	○新学習指導要領の特徴（特別の教科道德と「社会に開かれた教育課程」）。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
12	カリキュラム・マネジメント	○教科横断的カリキュラム。 ○カリキュラムの評価。	予習：教科書で該当箇所を予習。 復習：学習内容が説明できるように。	90
13	ヒドゥン・カリキュラム①	○学校式教育の特徴と限界。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
14	ヒドゥン・カリキュラム②	○ジェンダーから考える文化と教育目的・計画。	予習：図書館やSNSで事前に調査。 復習：学習内容が説明できるように。	90
15	授業のまとめと目標達成度の確認	○全授業内容のフィードバック。 ○授業内確認テスト。	予習：ノートや配布プリントを整理し、疑問点をまとめておく。 復習：確認テスト問題を中心に復習。	90

授業名	道徳教育の理論と方法	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎野口 周一			
開講期				
授業の概要	本授業では、まず道徳の本質・原理などに触れる。その上で、道徳教育は道徳科という授業だけではなく、学校の教育活動全体を通しても行われるという必要があるので、この両者の関係を明確にする。そして、道徳教育の歴史や道徳性の発達性に関する基礎知識について述べ、学校全体にわたる道徳教育の目標・内容、道徳科の目標・内容・指導計画と実際の指導、さらに道徳科の成立に伴う新しい道徳授業を模索して行く。授業の方法としては、グループ別討議や模擬授業を実施する。 課題についてのフィードバックは授業時に行う。			
授業の到達目標	1 道徳の本質や原理などを説明できる。 2 学校の教育活動全体で行う道徳教育の目標・内容及びその中核となる道徳科の目標・内容・指導計画・指導法などを理解できる。 3 上記の2点を踏まえて、道徳に関する指導案を作成して、その模擬授業を展開できる。 4 新しい道徳授業をつねに模索し続けることができること。これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げる「問題解決力」や「倫理観・社会的責任」や「総合的学習・創造的思考力」が培われる。 単位認定の最低基準は8割である。			
履修条件	中学校・高校教諭の教員免許状の取得を目指す学生。	成績の 評価方法・基準	レポート課題（50％）、グループ別討議の内容（20％）、模擬授業（30％）。	
テキスト	野口周一『道徳教育問題と歴史教育』（世音社）			
参考書	特になし。			
学生への要望	講義への主体的な参加を望む。			
位置付け・水準	TP9204			
ディプロマポリシーとの関係	「問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習の経験、創造的思考力」を培うことを目的とするが、冒頭の「人間を護り、人間生活の向上と社会の発展を目指し」「人文・社会・自然にわたる基礎的知識を総合的に用いつつ」という点を特に重視する。			
オフィスタイム	火曜・水曜のお昼休み。教職課程推進室。			
アクティブラーニング実施内容	テキスト・プリントを講読しつつ（指名して音読する）、問題点についてはその都度調べ、ことにより学習を深める。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の内容・進め方、グループ別討議の採用、成績評価の付け方などを説明する。	予習・復習	90
2	道徳とは何か	道徳に関する事例を多角的に検討し、徳目主義の問題点と道徳教育の可能性を考える。	予習・復習	90
3	戦前の道徳教育の歴史	修身科における道徳教育の推移や教育勅語体制の確立、戦時期の国民学校における修身科教育のありようを考察する。	予習・復習	90
4	戦後の道徳教育の歴史	修身科の廃止、「道徳の時間」の特設、「特別の教科」としての道徳科の成立の流れ、現代社会における道徳上の諸課題（いじめや情報モラルなど）を検討する。	予習・復習	90
5	道徳性の発達（1）	道徳性を構成する諸様相にはどんなものがあるか。	予習・復習	90
6	道徳性の発達（2）	小学校児童の道徳性の発達と中学校生徒の道徳性の発達について系統的にとらえる。	予習・復習	90
7	学校における道徳教育（1）	道徳教育の目標と内容をとらえて、その適切な指導を考える。	予習・復習	90
8	学校における道徳教育（2）	道徳教育の全体計画の事例を参照しつつ、その作成する際の配慮すべき事項と全体計画の意義と内容について考える。	予習・復習	90
9	道徳科の目標と内容（1）	道徳科の授業と、それ以外の教育活動における道徳教育との関係について考える。	予習・復習	90
10	道徳科の目標と内容（2）	道徳科の目指すべき目標を検討する。	予習・復習	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
11	道徳科の目標と内容（３）	道徳科で扱う内容項目と、その取扱いの工夫について考える。	予習・復習	90
12	道徳科の指導計画と実際の指導（１）	道徳科の指導計画の立案と、それに沿った道徳授業を展開してみる。	予習・復習	90
13	道徳科の指導計画と実際の指導（２）	道徳科の指導方の模索と評価の意義について考える。	予習・復習	90
14	新しい道徳授業を求めて（１）	「考え、議論する道徳の授業」を実践するには、どんな工夫が必要なのかを検討して、模擬授業を行う。	予習・復習	90
15	新しい道徳授業を求めて（２）	模擬授業の継続と全体の授業のまとめ。	予習・復習	90

授業名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎野口 周一			
開講期				
授業の概要	本講義では、学校教育における特別活動と総合的な学習の時間について、その教育的意義や教育課程上での位置づけの点で明らかにする。そのうえで、学習指導要領における。特別活動、すなわち、学級・ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等の核目標・内容・指導法について、そして総合的な学習の時間の意義、各学校において目標及び内容を定める際の考え方、指導方法と評価について、体験的に理解できるようにする。授業の方法としては、グループ別討議や学級を想定した話し合い活動を採用する。 フィードバックの方法は授業時に行う。			
授業の到達目標	1 学校教育における教科外活動の歴史と教科外活動の教育課程化の進行を理解できること。 2 学級活動・ホームルーム活動の教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できること。 3 生徒会活動・学校行事などの教育的意義とその指導目標・内容・指導法を理解できること。 4 総合的学習の教育的意義と指導法を理解できること。これら四つの学修によって、ディプロマ・ポリシーに掲げられている「問題解決力」や「倫理観・社会的責任」や「総合的学習・創造的思考力」が培われる。 単位認定の最低基準は80％である。			
履修条件	中学校・高校の教員免許状の取得を目指す学生	成績の 評価方法・基準	毎回の教室内での発言、グループ別討議の内容、その発表について50％、最終課題の評価を50％とする。	
テキスト	特に使用しない。			
参考書	特になし			
学生への要望	講義への主体的な参加を望みます。			
位置付け・水準	TP9203			
ディプロマポリシーとの関係	「知識・理解」「倫理観・社会的責任」「総合的学習経験・創造的思考力」を培うことを目的とする。			
オフィスタイム	火曜、水曜のお昼休み。教職課程推進室。			
アクティブラーニング実施内容	配布プリントを講読しつつ（指名して音読する）、問題点についてはその都度調べ、発表することにより学習を深める。			
実務家教員の経歴				

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	講義ガイダンス	授業の内容・進め方、グループ別討議の採用・発表等について説明する。また課外活動について調査の実施。	予習・復習	90
2	調査結果の分析と特別活動の意味	調査結果を分析して、特別活動の意味を明確にし、そして特別活動をなぜ学ぶのかを考える。	予習・復習	90
3	教育課程と特別活動との関係	教育課程の意味・定義を明らかにし、教育課程と特別活動の関係をとらえる。	予習・復習	90
4	教育的価値の認められた課外活動の実例（1）	19世紀イギリスのラグビー、明治期の遠足の始まり、その実態と意義を明らかにする。同時に、現在の遠足の意義も考える。	予習・復習	90
5	同上（2）	明治期の運動会と学会会の始まり、その実態と意義を明らかにする。同時に、現在の意義も考える。	予習・復習	90
6	同上（3）	大正期の相談会と昭和前期の課程外指導の実態と意義を明らかにする。同時に、現在の学級活動の意義も考える。	予習・復習	90
7	課外活動の教育課程化とその条件	課外活動の教育課程化とは何か。	予習・復習	90
8	教科課程と自由研究の関係	自由研究の新設、内容、その問題点を明らかにする。この自由研究が次の特別教育活動にどう継承されるか。	予習・復習	90
9	特別教育活動の登場と特別活動の成立	特別教育活動の登場の意味を考え、特別活動への命名変更は何を意味するのか。	予習・復習	90
10	学習指導要領と特別活動の改訂	学習指導要領の改訂（平成29年）の経緯とねらい、特別活動の改訂のポイントを考える。	予習・復習	90
11	特別活動の目標とその活動内容	特別活動の目標はどのように規定され、活動分野に何があるのか。	予習・復習	90
12	学級活動の目標・内容とその指導法	学級活動における話し合い活動を事例に考える。	予習・復習	90
13	総合的な学習の時間の意義	各学校において目標や内容を定める際の実態から考える。	予習・復習	90
14	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習における主体的で対話的な深い学びと指導の仕方について検討する。	予習・復習	90
15	授業のまとめ	講義全体の振り返りを行う。	予習・復習	90

授業名	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎山上 裕子			
開講期				
授業の概要	教育の方法は、学ぶ者、学ぶ内容によって動く生きたものである。何をどう教えていくのか、学校全体の教育課程全体像をつかみつつ、日々の授業を創意工夫していく必要がある。特に現在は、自ら主体的に考えるアクティブな学びが求められている。本講義では、教育方法の基礎理論、多様な授業形態、授業の構成要素や評価、授業の基礎的な技術や指導案作成を行う。そして教育機器の効果的な使用方法について学ぶ。提出物を添削・返却し、コメント等によるフィードバックを行う。			
授業の到達目標	①教育方法の基礎理論について、7割以上理解できたか。 ②授業の構成要素や多様な学習評価について、7割以上理解できたか。 ③授業の指導技術のポイントを7割以上理解し、指導案を作成できたか。 ④情報モラルの現状と課題について、7割以上理解できたか。 ⑤ICT教育の特徴と教材作成方法について、7割以上理解できたか。			
履修条件	教職課程履修者	成績の 評価方法・基準	授業参加度 20％、レポート 80％	
テキスト	・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			
参考書	・授業中に紹介し、適宜資料を配布する。			
学生への要望	授業用ノートを準備し、疑問点などメモをとること。 遅刻、欠席をしないよう注意すること。			
位置付け・水準	TP9205			
ディプロマポリシーとの関係	人間生活学科：「知識・理解」「問題解決力」「総合的な学習経験、創造的思考力」 食物栄養学科：「知識・技能」「社会的応用」「衛生管理・指導」			
オフィスタイム	山上：火、金、14：40～16：00 833研究室 山口：月9：00～10：30、月13：00～14：30 No.3地域創成学科研究室			
アクティブラーニング実施内容	指導案作成とその検討 デジタル教材作成とその検討			
実務家教員の経歴	山上：盲学校、小学校教員経験 山口：IT企業でシステムエンジニア経験			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション（担当：山上裕子）	授業内容について説明を受け、到達目標を確認する。これまで受けてきた授業を振り返り、現在求められている学びについて考える。	シラバスを確認し、自身が受けてきた授業についてメモにおこす。	60
2	教育の方法の基礎（担当：山上裕子）	子どもから学びが始まる、という教育観に立つ先人たちの提案した教育方法の考え方（ルソーの消極的な教育、ペスタロッチの直観教育等）とその実践について学ぶ。	授業で取り上げられる人物が生きた時代背景を確認する。	60
3	問題解決学習と授業の構成要素（担当：山上裕子）	自らが問い、課題を設定し、それを解決していくデューイの問題解決学習の理論と実践を学ぶ。また、授業の構成要素について学ぶ。	授業で取り上げられる人物が生きた時代背景を確認する。	60
4	多様な授業と評価（担当：山上裕子）	ドルトンプラン、イェナプランなど多様な授業の方法を学ぶ。多様な授業に応じた多様な評価を学ぶ。	授業で取り上げられる多様な授業について、現在取り入れている学校を調べる。	60
5	指導案の作成の基本（担当：山上裕子）	学習指導計画の基本を学び、現行の「学習指導要領」の総則に沿って、指導計画を立てる。	「学習指導要領」をよく読む。	60
6	指導案の作成（担当：山上裕子）	話し方、板書の仕方に留意し、作成した指導案を記載する。	指導案を仕上げる	60
7	指導案の検討（担当：山上裕子）	話し方、板書の仕方に留意し、作成した指導計画を発表する。	作成した指導計画について学んだことを振り返る。	60
8	ICT教育システムの設定と基本操作の理解（担当：山口猛）	情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の理論及び方法を理解するため、実際に多くの小中高で利用されているICT教育システムを学修者自身のパソコンに設定し、基本操作を説明する。	ICT教育システムの基本操作を復習する。	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
9	ICT教育の歴史と現状（担当：山口猛）	文部科学省・総務省によるICT教育推進の歴史を確認する。また、ICT教育環境の具体的な活用事例から、長所と短所の理解を深める。	ICT教育推進の歴史を復習し、国の政策や課題を復習する。	60
10	情報モラルの現状と課題（担当：山口猛）	子どもたちの学びを脅かすさまざまな課題（情報機器の利用実態・事件/事故）と対策の理解が必要である。情報モラル教育の具体例として、タイムマネジメントとリスクマネジメントを学修する。	授業内容を元に、自分のタイムマネジメントとリスクマネジメントを作成する。	60
11	デジタル教材作成（担当：山口猛）	前回学修したタイムマネジメントとリスクマネジメントについて、デジタル教材を作成する手法を説明する。	デジタル教材を作成する。	60
12	ICT教育システムの応用操作（担当：山口猛）	デジタル教材を授業で利用するための、ICT教育システム応用操作を理解し、授業実践の計画を行う。	ICT教育システムの応用操作を復習する。	60
13	ICT教育システムを用いた模擬授業（担当：山口猛）	ICT教育システムを用いた模擬授業を行う。	模擬授業を行うためのICT環境準備を行う。	60
14	ICT教育システムを用いた模擬授業の反省（担当：山口猛）	ICT教育システムを用いた模擬授業の結果を反省し、改善点を検討する。	検討した改善点を元に、自身のICT教育システムを用いた授業計画をまとめる	60
15	情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の課題共有ディスカッション（担当：山口猛）	第8回～14回までの学習内容を振り返るために、情報通信技術を活用した教育「ICT教育」の課題をまとめるディスカッションを行う。	自分なりの将来のICT教育の理想像の考えをまとめ、意見ができるようにする。	60

授業名	生徒指導論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	生徒指導の機能と意味を把握した上で、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、さらに、いじめや不登校、非行等の問題行動の予防と対策に重点化する近年の動向について理解を深めていく。各授業の後半で行う小テストや小レポートについては、添削した後、次回授業冒頭にてフィードバックする。また、最終回の授業において、授業全体をフィードバックする。なお、授業内容に応じてアクティブラーニングの手法を取り入れる。また、実務家教員としての教員経験を活かし、教育現場の実践が想定できる指導を行う。			
授業の到達目標	【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点 ①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間となるのを支援することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。 ②生徒指導では、生徒個々の自己実現を支援すべく、集団としての生徒指導と個別の教育相談活動を連動させる必要があることが理解できたか。 ③生徒指導は、学校内の教職員の協力体制があってこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっていることを理解できたか。 ④生徒指導は、子どもたちの健全育成プランと連動するので、その推進には様々な関係者との連携が不可欠であることが理解できたか。 単位認定の最低基準は、上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	教職課程履修者。 3学年以上。	成績の 評価方法・基準	各授業回ごとに実施する確認小テスト・レポートで50％、最終回に実施する総まとめテストで50％の割合で評価し、総合評価6割以上で合格とします。	
テキスト	・文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』 ・毎回の授業において、その日のテーマに即したレジュメや資料を配布するので、それらをしっかりファイルにして第2の教科書として所持していること。			
参考書	授業中にその都度紹介する。 尚、『青少年白書』、『子ども年鑑』などは重要文献である。近年の刊行のものがよい。			
学生への要望	授業に際しては、 ①レポートは必ず指定の日までに出す。 ②指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。 ③配布された資料はファイリングして、教科書として使用できるようにすること。			
位置付け・水準	TP9206			
ディプロマポリシーとの関係	問題解決力、倫理観・社会的責任、創造的思考力			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目、教職課程推進室1（図書館3階）。			
アクティブラーニング実施内容	各授業において、学生個々の学校体験を振り返り、経験を基盤に考察した内容を発表し、他者と共有するアクティブラーニングを採り入れる。特に、第10回授業においては、規範意識の涵養と校則との関係について、グループ討議を行う。			
実務家教員の経歴	中等教育の教員としては、神奈川県立新羽高等学校や学校法人白根開善学校に勤務。発達障がい児教育の教員としては、フリースクール飛翔中等部に勤務。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	導入 本授業の構成・計画について理解する 「生徒指導」の既存イメージを共有する	・本授業の目標と授業内容構成を理解する。 ・自分の学校体験の中にある「生徒指導」のイメージを確認し、発表を通して他者と共有する。 ・レポート「思い出に残る良い先生」をまとめて提出する。	レポート 復習	120
2	生徒指導の意味と位置づけ	・前回提出したレポートについて数名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。その中で、良い教師が持つ指導力に焦点をあて、それを生徒指導と関連づけてみる。 ・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。	レポート 予習	120
3	生徒指導と教師の姿	生徒指導の観点から教師の在り方を考える。 1 手本としての教師 教師の権力性を確認した後に、「教育のパラドックス」と生徒指導の観点から教師に必要な姿勢を洞察する。 2 教師の自己開示 上記1の具体的内容として、教師の自己開示の必要性和方法を考える。	レポート 予習	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
4	生徒指導の組織体制	多角的な観点から、生徒指導の組織体制について、理解を深める。 1. 生徒指導の校内組織と生徒指導年間計画 2. チームとしての学校 3. 初期対応力とアセスメントの力	小テスト 予習	120
5	自立を促す生徒指導の手法	子どもに自立を促す生徒指導の手法を理解する。 1. コーチングとティーチング 2. 構成的グループ・エンカウンター 3. 感情のコントロールとマネージメントなど	小テスト 予習	120
6	少年非行問題	少年非行について、その問題性と対峙方法について 1. 少年非行の推移と現代的非行の特徴 2. 非行の具体的様相と非行モデル化 3. 非行からの立ち直り 4. 少年事件処理手続きの流れと教師の役割	レポート 予習	120
7	いじめ問題と対策	いじめの現状理解と最新のいじめ理論から、具体的対策について理解を深める。 1. いじめの現状 2. いじめの理論 3. いじめ防止対策推進法と生徒指導体制	レポート 予習	120
8	生徒指導と教育相談	生徒指導と教育相談の関係を整理し、指導の両輪としての性格を理解する。 1. 相談体制 2. カウンセリング・マインド 3. 校則と教育相談	小テスト 予習	120
9	『生徒指導提要』（文科省）を読み解き、活用する。	・文科省『生徒指導提要』を手掛かりにして児童生徒の問題行動の実態、それへの対応（予防、即時解決、事後指導、そして健全育成）のあり方を体系的に学ぶ。 ・個別指導と集団指導の手法を学ぶ ・進路指導、教育相談、家庭・学校・地域・関係機関との連携協力の在り方を学ぶ 他に、国立教育政策研究所生徒指導センターの『生徒指導資料』や、月刊誌『生徒指導』『教職課程』（生徒指導の特集号）を活用して校内整備や他機関との連携についての知識を深める。	小テスト 予習	120
10	子どもの規範意識とその芽生え	子どもの自立性・主体性と規範意識の関係を探究的に理解する。（グループ討議による仮説と検証） 1. 規範意識を育むこと 2. 公共性や奉仕の精神が育まれる条件	レポート 予習	120
11	「抱え込み」から開かれた「連携」へ	学校への期待の変化と危機管理責任の観点から、生徒指導の効果的な連携の在り方を学ぶ 1. 児童生徒の法的地位と学校への期待 2. 生徒指導と危機管理 3. 多様な対象への対応を可能にする組織連携	小テスト 予習	120
12	多様な子どもたちと権利を守る諸法	多様な子どもの状況を知り、それに対する子どもの人権の観点から、生徒指導の在り方を考える。 1. 特別支援教育 2. 貧困状態におかれた子ども 3. 性的マイノリティー	小テスト 予習	120
13	不登校問題と教育機会確保法	不登校の現状と対応の基本的考え方を理解した上で、教育機会確保法の持つ不登校へのインパクトを考える。 1. 不登校の定義と現状 2. 不登校の子どもへの支援 3. 不登校のケース会議と教育支援シート 4. 教育機会確保法の内容と、それが不登校に対して持つ意味	レポート 予習	120
14	生徒指導とキャリア教育	生徒指導とキャリア教育の関係を理解する。 1. キャリア教育の必要性 2. 進路指導とキャリア教育 3. 職場体験活動 4. 高校中退と高等学校卒業程度認定試験	レポート 予習	120
15	授業のまとめ	授業の総まとめを行う中で、授業全体の理解度を確認する。総まとめテスト。	復習	120

授業名	教育相談論	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 必修/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 必修/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 2年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 2年 2単位 選択	
担当教員名	◎宇治 和子			
開講期				
授業の概要	教育相談は、児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力をはぐくみ、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの理論や技術）を、実践的に身に着けていきます。 各種課題は授業内にて随時返却 or 口頭フィードバックしていきます。			
授業の到達目標	本授業は、以下3点を達成目標（8割以上で単位認定）とします。 ・学校における教育相談の意義と理論を理解する。 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリング・マインド等）を理解する。 ・教育相談の進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を、具体的にイメージできる。			
履修条件	生活科学科 2年生 「教職課程」受講者 食物栄養学科 2年生 「教職課程」受講者	成績の 評価方法・基準	積極的な授業参加（20％）、授業内課題やレポート提出（3回：80％）により評価します。	
テキスト	教科書は使わず、レジュメ、資料を配布します。			
参考書	授業の中で、随時紹介します。			
学生への要望	資料等を工夫してイメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を期待します。			
位置付け・水準	DW2295・TP9201			
ディプロマポリシーとの関係	この科目は、本学人間生活学科DPの「問題解決力」「倫理観・社会的責任」「総合的な学習経験、創造的思考力」に、また食物栄養学科DPの「社会的応用」「倫理・責任」「衛生管理・指導」に関連しています。			
オフィスタイム	授業の前後に質問を受け付けます（研究室836）。			
アクティブラーニング実施内容	グループワーク・ディスカッションなど			
実務家教員の経歴	この授業は、子ども家庭福祉の現場で心理職として相談実務経験のある教員が担当します。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法について説明する ・「ここに残るあの先生…」を振り返るワークを行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
2	学校における教育相談の定義	・学校内で行われる教育相談について概要を説明する ・人の気持ちを理解するワーク1を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
3	学校における教育相談の歴史	・学校内で行われる教育相談の歴史的背景を説明する ・人の気持ちを理解するワーク2を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
4	学校における教育相談の種類	・教育相談を行うにあたっての、校内体制の整備、組織的な取り組みの必要性を説明する ・人の気持ちを理解するワーク3を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
5	教育相談を組み立てる 1	・インテーク面接の基本について説明する ・相談ロールプレイ 1、情報整理シートの記入を行う	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
6	教育相談を組み立てる 2	・ジェノグラムの描き方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
7	教育相談を組み立てる 3	・エコマップの描き方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
8	教育相談を組み立てる 4	・行動観察について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
9	教育相談を組み立てる 5	・心理検査の見方について説明する ・子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
10	教育相談を組み立てる 6	・ 復習と質問項目の検討 ・ 子どもの発するサインに気付くことについて説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
11	教育相談を組み立てる 7	・ 相談ロールプレイ 2 を行う ・ 子ども及び保護者に対する支援計画を含む面接相談記録を作成する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
12	教育相談の技法 1	・ カウンセリングの基本的な理論について説明する ・ 人間観と基本的態度について説明する	このテーマに関連する参考資料や図書を紹介するので、よく読みこんで予習・復習すること	60
13	教育相談の技法 2	・ カウンセリングマインドについて説明したのちに、体験ワークを行う	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
14	教育相談にあがってくる問題 1	・ 子どもと教育者、暴力をめぐる問題について、事例をあげながら説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60
15	教育相談にあがってくる問題 2	・ いじめや不登校、性の問題など、具体的な事例をもとに説明する	このテーマに関連するニュースや新聞記事を探して読み、知見を広げる	60

授業名	栄養教育実習Ⅰ	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 4年 1単位 選択
担当教員名	◎亀田 明美		
開講期	前期		
授業の概要	【授業の目的・ねらい】 ①栄養教育実習の目的や心構えを確認する。 ②学習指導案の作成や模擬授業等の体験を通して必要な実践力を修得する。 ③実習後の報告会により教育現場への理解を深める。 【授業全体の内容の概要】 事前指導では、栄養教育実習の目的や心構えを確認し、学習指導案の作成や模擬授業等の体験を通して必要な実践力を修得する。事後指導では、報告会を行い、相互の体験の交流により、教育現場への理解を深める。 ①模擬授業者に対するフィードバックを授業の中で行う。②レポートを添削・返却しコメント等によるフィードバックを行う。		
授業の到達目標	①実習生としての責任の重さを自覚することがえる。 ②実習前の事前準備をすることができる。（アクティブラーニング） ③実際の指導場面を想定した学習指導案が作成できる。（アクティブラーニング） ④実習体験をふり返り、他者に伝えることができる。 ⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描ける。 単位認定基準：内容の８割を理解していること。		
履修条件	教職課程（栄養教諭）履修者	成績の 評価方法・基準	①模擬授業・プレゼンテーション 80点 ②レポート 20点
テキスト	食に関する指導の手引―第二次改訂版―文部科学省		
参考書	栄養教諭を中核とした これからの学校の食育 ～チーム学校で取り組む食育推進のPDCA～ 学習指導要領		
学生への要望	栄養教育実習に向けて万全の準備で臨み、実習後はその経験を活かし教員として相応しい資質を身に付けること。		
位置付け・水準	TP9701		
ディプロマポリシーとの関係	知識・技能、社会的応用、倫理・責任、衛生管理・指導		
オフィスタイム	水曜日2コマ目 木曜日5コマ目		
アクティブラーニング実施内容	食に関する指導の実践 実習先で行う研究授業について指導案を作成し模擬授業を行う		
実務家教員の経歴	福島県教育庁県北教育事務所指導主事・栄養教諭として勤務した経験をもとに、栄養教育実習を充実させるための事前指導と学びを進化させるための事後指導を行う。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	教育実習オリエンテーション	実習の目的、心構え、準備等について、栄養教育実習日誌を配布し確認する。また、実習日誌の記入方法、自己評価等についても確認する。	授業の復習と実習ノートのまとめ	10
2	実習の準備1	学校の組織、栄養教諭の職務内容を確認する。また、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間の各領域について学習指導要領を基に、学校の実態に応じた指導計画が学年ごとに組まれていることを理解する。	実習ノートのまとめ	10
3	実習の準備2	小学校低学年・中学年・高学年、中学校の授業例を提示し、授業全体の流れや発達段階に応じた指導方法について学ぶ。	実習ノートのまとめと模擬授業の準備	10
4	実習の準備3	実習校の児童生徒の実態をできる範囲で把握し、実習校の課題により指導案を作成する。作成した指導案や媒体、板書計画等が児童・生徒の実態や発達段階にあっているかなどの教材研究をする。	実習ノートのまとめと模擬授業の準備	60
5	実習の準備4	作成した指導案により、模擬授業を行う。担任や養護教諭等と、どのように連携すると教育効果が上がるかを相互の演習を通して考える。（アクティブラーニング）	実習ノートのまとめと模擬授業の準備	60
6	実習の準備5	作成した指導案により、模擬授業を行う。担任や養護教諭等と、どのように連携すると教育効果が上がるかを相互の演習を通して考える。（アクティブラーニング）	実習ノートのまとめと模擬授業の準備	60
7	実習の準備6	作成した指導案により、模擬授業を行う。担任や養護教諭等と、どのように連携すると教育効果が上がるかを相互の演習を通して考える。（アクティブラーニング）	実習ノートのまとめと模擬授業の準備	60
8	まとめ	実習で得た学びや気づき、今後の課題をまとめて発表し、自らの教育実習を振り返る。	実習ノートのまとめ レポート作成	10

授業名	栄養教育実習Ⅱ	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 4年 1単位 選択
担当教員名	◎亀田 明美		
開講期			
授業の概要	教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行うことを目指す。 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や児童生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。 【課題（試験やレポート等）に対するフィードバック（評価の伝達）方法】 実習日誌返却時に、コメント等によるフィードバックを行います。 【教育課程内の位置づけや水準（ナンバリング）】 TP9702		
授業の到達目標	①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や児童生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や児童生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。 【単位認定の最低基準】：「内容の6割を理解してること」 【ディプロマポリシーとの関係】：社会的応用、倫理・責任、衛生管理・指導		
履修条件	今年度「栄養教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	成績の 評価方法・基準	実習校からの評価と実習記録および実習への取り組みの総合点（100点）とする。教員採用試験未受験は－10点とする。
テキスト	栄養教育実習書		
参考書	事前指導の際に連絡する。		
学生への要望	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかりと行うこと。 受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	現場実習	オリエンテーション	実習校調査 実習日誌への事前必要事項記載の確認	60
2	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	60
3	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
4	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
5	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
6	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
7	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
8	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
9	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
10	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
11	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
12	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
13	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
14	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備	90
15	教育実習成果のまとめ	1. 教育実習での成果 2. 教育実習で発見した課題と解決	実習の総まとめ（実習日誌の仕上げ）	90

授業名	教職実践演習（栄養教諭）	配当年次 単位数	家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 必修
担当教員名	◎亀田 明美		
開講期			
授業の概要	本演習では、以下の4項目を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指します。教員の授業担当はオムニバスになり、授業單元ごとのレポート等を通して、フィードバックが行われます。最終回の授業において、履修カルテの仕上げによって、教職課程全体をフィードバックします。 なお、オムニバスで担当する教員の中には、初等・中等教育や特別支援教育における教員経験を活用した指導を行う者が複数おり、教育現場の実際を意識した学びが重視されます。授業内容の特質に応じてアクティブラーニングが取り入れられます。 実務経歴：初等・中等教育や特別支援教育等での教員経歴がある者は、以下の通り。 小林、磯部、山本、亀田、折笠、黒沼、ホーナー。 【教育課程内の位置づけや水準（ナンバリング）】 TP9703		
授業の到達目標	1．使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 ①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。 2．社会性や対人関係能力に関する事項 ②生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。 3．児童生徒理解や学級経営等に関する事項 ③現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「児童生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。 4．教科の指導力に関する事項 ④小学校ならびに中学校における食に関する指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。 【単位認定の最低基準】：上記①～④の総合的評価が達成度7割以上であること。 【ディプロマポリシーとの関係】：社会的応用、倫理・責任、衛生管理・指導		
履修条件	栄養教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること	成績の 評価方法・基準	担当教員それぞれが、各回のレポート等を10点満点で評価する。全員の評価を平均し、100点満点に換算して評価する。
テキスト	教科書は使用しない。必要な資料を授業の際に、配布するので、各自ファイル等に綴じて管理すること。		
参考書	授業の際に、各担当教員より提示。		
学生への要望	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。		
位置付け・水準			
ディプロマポリシーとの関係			
オフィスタイム			
アクティブラーニング実施内容			
実務家教員の経歴			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション （「教職実践演習（中・高）」と合同） 担当：山本、野口、菊池、亀田	①教職課程における「教職実践演習」位置付けについて理解する。 ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。 ③教職採用試験受験状況、その他教職アンケート調査 ④履修カルテに関する説明	レポート 復習	90
2	「特別支援教育」の現状と課題 〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：小林	いわゆる「気になる子」と特別支援教育の現状と課題について、理解を深める。	予習 レポート	120
3	教育史に学ぶ教育〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：野口	教育史の中から教育の実際にせまる。	レポート、復習	120
4	学校教育における芸術科教育 〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：磯部、黒沼	学校教育における芸術科教育の意義に触れるとともに、芸術科教員から家庭科教諭や栄養教諭に望むことを理解する。	レポート	120

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
5	円滑なコミュニケーション・連携の方法について〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：折笠	円滑なコミュニケーションの方法について学ぶ（対児童生徒、対保護者、対同僚）	レポート 復習	120
6	円滑なコミュニケーション・連携の方法について〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：折笠	円滑なコミュニケーションの方法について学ぶ（対児童生徒、対保護者、対同僚）	レポート 復習	120
7	教師の教養としての英語表現力〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：ホーナー	英語での自己紹介力を高める。	レポート 復習	120
8	「チーム学校」の現状〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：ゲストスピーカー 郡山市教育委員会 担当：山本	教育委員会より、教育現場の経験豊かな教育行政官を招き、「チーム学校」に関する基本的な考え方と、食育を含む学校教育の現状について解説して頂く。	レポート	120
9	自己の専門性を他の専門職者へ伝える① 作戦会議と教材作成 担当：菊池、亀田	中高普通免許状家庭科一種履修生に向けて、栄養教諭の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究 プレゼンテーション準備	120
10	自己の専門性を他の専門職者へ伝える② 作戦会議と教材作成 担当：菊池、亀田	中高普通免許状家庭科一種履修生に向けて、栄養教諭の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究 プレゼンテーション準備	120
11	自己の専門性を他の専門職者へ伝える③ 作戦会議と教材作成 担当：菊池、亀田	中高普通免許状家庭科一種履修生に向けて、栄養教諭の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。	調査研究 プレゼンテーション準備	120
12	自己の専門性を他の専門職者へ伝える④ 〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：山本、野口、菊池、亀田	中高普通免許状家庭科一種履修生に向けて、栄養教諭の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションを行う。	レポート	120
13	食物アレルギーと望まれる食育の在り方〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：亀田	栄養教諭としての実践経験を踏まえた、食物アレルギー対策と望ましい食育のあり方について、知見を深める。	レポート	120
14	音楽療法の世界に学ぶ〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：佐藤久美	音楽療法の世界に触れることで、教育現実を相対化し得る精神的素養をひろげる。	レポート	120
15	まとめ〔「教職実践演習（中・高）」と合同〕 担当：山本、菊池、野口、亀田	授業の総括を行う。 当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。	履修カルテの完成	120

授業名	教職キャリアデザインⅠ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 3年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 3年 2単位 選択	
担当教員名	◎山本 裕詞			
開講期				
授業の概要	教職キャリアデザインⅠは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教職に就くために何をどう努力したらよいか、その具体的な方途を得ることを目標としている。講義の内容は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討論等から成り、内容の性質に応じてアクティブラーニングの手法がとられる。本科目の受講を手がかりにして教職へのキャリアを築くことができるよう、積極的に勉学に励むことを期待する。授業各回ごとの課題や答練の添削等を通してフィードバックするので、復習に活用すること。 なお、担当教員の内、山本、瀬谷、亀田に関しては、中等教育における教員経験がある。学校教育の実際を経験した立場から、授業の各内容を担当することで、学校教育の実際を反映する採用試験対策、ひいては教職キャリア形成を効果的に支援する。			
授業の到達目標	①教員としてのキャリア形成を意識した取り組みができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識し、向上させることができたか。 単位認定の最低基準は、上記①～②の総合的評価が達成度7割以上であること。			
履修条件	原則として、本学教職課程履修者の内、大学3年生、卒業生を対象とする。	成績の 評価方法・基準	取り組み姿勢30％、提出物70％の割合で各回の授業担当者の総合評価による「認」評価。	
テキスト	特に指定はない。毎回、各担当教員が資料等を配布する。			
参考書	『教育小六法』（最新版が望ましい） 志望校種の『学習指導要領』			
学生への要望	採用試験は、各都道府県によってさまざまであるため、各自の自主的な勉学が必要である。本科目の受講が勉学の指針となるように、授業への積極的な参加を望む。 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
位置付け・水準	TP9001			
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任			
オフィスタイム	月曜日1時間目及び2時間目、教職課程推進室1（図書館3階）。			
アクティブラーニング実施内容	個人面接や集団討論では、学生が実践するアクティブラーニングの手法をとる。			
実務家教員の経歴	山本は、神奈川県立高等学校、私立中高一貫校教諭、専門教科「社会」「公民」、学習障害者対象フリースクール教員を経験。 瀬谷は、福島県立高等学校校長、専門教科「家庭」、1級衣料管理士取得、教育庁社会教育課課長、社会教育主事資格取得。 亀田は、福島県内で学校栄養職員及び栄養教諭を経験、管理栄養士。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 担当：山本	授業内容、自学の仕方、教員採用試験に関する説明を聞く。志望都道府県調査表を記入する。	復習	90
2	教育法規 担当：山本	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
3	特別支援教育 担当：藤村	過去問を解くことを通して、出題の傾向を知る。	復習	90
4	教科別指導① 担当：（家庭）瀬谷（栄養）亀田	志望する自治体の出題傾向を研究する。	復習	90
5	教科別指導② 担当：（家庭）瀬谷、（栄養）亀田	志望する自治体の出題傾向を研究する。	復習	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	教科別指導③ 担当：（家庭）瀬谷（栄養）亀田	各専門教科について、基礎的な知識の理解を深める。	復習	90
7	教育心理 担当：佐藤久美	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
8	教育心理 担当：佐藤久美	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
9	教育時事 担当：山本	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
10	教育史 担当：野口	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。	復習	90
11	小論文指導① 担当：野口	小論文の出題例、書き方の概要解説	復習	90
12	小論文指導② 担当：野口	論理的に文章をまとめ上げる基本を知り、添削を受ける。	復習	90
13	個人面接 担当：瀬谷	教職をなぜ目指すのか。面談の体験を通して教職への意識を高める。アクティブラーニング。	復習	90
14	集団討論 担当：山本	グループで結論を導き出す体験を通して、討議とは何かを知る。アクティブラーニング。	復習	90
15	採用試験の申込について 担当：山本	授業のまとめと確認テスト 採用試験の手続き、提出書類について知る。	復習	90

授業名	教職キャリアデザインⅡ	配当年次 単位数	家政学部 生活科学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科社会福祉専攻 4年 2単位 選択/家政学部 生活科学科建築デザイン専攻 4年 2単位 選択
担当教員名	◎山本 裕詞 野口 周一 小林 徹 折笠 国康 亀田 明美 瀬谷 真理子 磯部 哲夫 ダニエル ホーナー 黒沼 令 佐藤 久美 藤村 励子		
開講期			
授業の概要	教職キャリアデザインⅡは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教員採用試験の突破に直結する実践的な力をつけることをねらいとしている。 また、授業だけではなく、業者が行う模擬試験（教職教養）の受験をとおして、自己の実力を知り、結果を踏まえてキャリア形成の一助となるよう情報提供する。本科目の受講をとおして、これまでの勉学がより一層促進されることを目指す。各授業担当者によって、課題の添削等を通して個々へのフィードバックや、受講生全体の傾向を踏まえたフィードバックが行われる。		
授業の到達目標	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。 単位認定の最低基準は、上記①～②の総合的評価が達成度7割以上であること。		
履修条件	原則として、本学教職課程履修者の内、大学4年生、卒業生を対象とする。	成績の 評価方法・基準	取り組み姿勢30％、提出物70％の割合で総合し、「認」評価を行う。
テキスト	特に指定はしない。毎回、担当教員が適宜資料を配付する。		
参考書	『教育小六法』（最新版が望ましい） 志望校種の『学習指導要領』		
学生への要望	本科目の受講をとおして各自の勉学の指針となるよう積極的に受講されることを希む。		
位置付け・水準	TP9002		
ディプロマポリシーとの関係	知識・理解、問題解決力、倫理観・社会的責任		
オフィスタイム	月曜日の1時間目および2時間目、教職課程推進室1（図書館3階）		
アクティブラーニング実施内容	授業内容の内、個別面接、集団面接、集団討論等は、アクティブラーニングで実施する。また、教育時事の解説時にも、必要に応じて討論を交えて理解を深めていく。		
実務家教員の経歴	担当教員のうち、山本に関しては、公立の高等学校、私立の全寮制中高一貫校、学習障害者対象のプログラムを持つフリースクール等における教員経験がある。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
1	オリエンテーション 担当：山本	授業内容の説明を聴く。教員採用の現状を知り、個別相談を受ける。 教職教養に関する出題想定問題を解き、自己の現状を知る。	復習	90
2	小論文（入門編） 担当：野口	「小論文のポイント」を踏まえ、与えられたテーマをもとに、小論文を書いてみる。	課題 復習	90
3	小論文（応用編） 担当：野口	前時に書いた小論文に関し、評価を受ける。 自己の教育に対する考えを、論理的にまとめる練習をする。	課題 復習	90
4	面接指導① 担当：山本	面接指導の実際について、説明する。	受験する予定の採用試験傾向を調べて授業に臨む。 復習	90
5	面接指導② 担当：山本	志望する自治体の特色（教員養成指標等）を調べて、発表する。 志望する自治体の教員像から、具体的な教師の在り方を話し合う。	志望する自治体の教育委員会HP等から情報を収集して、授業に臨む。 復習	90

回	項目	授業内容	自学自習	目安時間
6	小論文指導(活用編) 担当：野口	小論文講座の基礎編、応用編で学修した内容を活用して、小論文を作成する。 小論文講評によって、残された課題を明確化する。	課題 復習	90
7	小論文指導（上達編） 担当：野口	基礎編、応用編、活用編での学修を踏まえ、評価を得る小論文を意識して作成する。	課題 復習	90
8	小論文指導（総仕上げ） 担当：野口	これまでの小論文講座で学修した内容を総合的に活用し、完成度の高い小論文を作成する。	課題 復習	90
9	面接指導③ 担当：山本	集団面接の在り方を学ぶ。ロールプレイを通した相互批判を行う。	復習	90
10	面接指導④ 担当：山本	採用試験対策としての討論の在り方を学ぶ。 ロールプレイを通して、討論について体験的に学ぶ。	予習：過去問集等から討論課題を予想し、対応をシュミレートしておく。 復習	90
11	場面指導（入門編） 担当：山本	採用試験における場面指導の在り方を知り、自己の指導観を批判的に確認する。 その際、個々の指導観の発表をもとに、全体で討議する。	復習	90
12	場面指導（応用編） 担当：山本	既に学んだ場面指導に関する基礎的理解をもとに、採用試験を想定した場面指導について、体験的な学び（場面指導の相互評価）を通して、さらに理解を深め、具体的に対応できる力を身につける。	復習	90
13	教育時事 担当：山本	現在、教育現場で話題となっていることを知り、文部科学省の方針の理解を深める。	復習	90
14	個人面接（総仕上げ） 担当：山本	自己をPRする力をつけるとともに、採用試験に対応できる面接スキルが身につけていることを確認し、教職への意識をさらに高める。 なお、他者の面接の様子を観察し、批判することで、自らの面接力の向上を目指す。	復習	90
15	集団面接（総仕上げ） 担当：山本	グループで教育に関する課題について、ある結論を導き出す体験をととして、他者と討議する力を高める。	復習	90